

図書館だより  
Library News No.61  
Nara National College of Technology

2004年7月 奈良工業高等専門学校図書館発行



あさがおが朝を選んで咲くほどの出会いと思う肩並べつつ  
(吉川宏志『青蟬』より)

朝顔の八入の紺のいたみかな  
(渡辺純枝『空華』より)  
八入：(シホは染汁に浸す回数をいう語)  
幾度も染汁に浸して濃く染めること。  
— 広辞苑 —

表紙絵 5I 市川 まどかさん

目次

巻頭言「国立高専の独立行政法人化」…………… 2	2004年度学生会図書委員会……………11
「情報メディア教育の今後」…………… 3	2004年情報メディア教育センター……………11
新任教員よりメッセージ…………… 4	おしらせ……………11
卒業生からのメッセージ…………… 6	図書館利用状況・統計……………12
総合情報センターより……………10	最近の書棚から……………13

## 巻頭言

# 国立高専の独立行政法人化

学校長 一岡 芳樹

平成16年4月1日、国立大学の法人化に併せて、「国立高等専門学校」が独立法人化されました。全国にある55国立高専の設置・運営を目的として、独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」）が設立され、機構は各国立高等専門学校（55校）を設置しました。これに伴い、本校の正式名称は「独立行政法人国立高等専門学校機構奈良工業高等専門学校」となります。

昭和37年に創設された国立高等専門学校は、本年3月末までは国立学校設置法という法律のもと、文部科学省直轄の国立高等専門学校として運営されてきました。本年度から、独立行政法人国立高等専門学校機構法（以下「機構法」）という新しい法律のものと国立高等専門学校として再出発することになります。なぜ、教育機関である国立高専を独立行政法人化しなければならないのか？という問に対しては、政府が掲げる国策「聖域なき構造改革」の一環であるという以外に説明のしようがないように思われます。なお、これからも機構が設置する国立高専は政府の出資金（国費）等で運営されますので、学生諸君の教育研究は以前と変わらない環境で行うことができます。

機構の目的は機構法の第3条に明記されています。

「機構は、機構法別表に掲げる各国立高等専門学校を設置すること等により、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を養成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする」

この条文で大切なことは、国立高専が高等教育機関であると明記されたことです。

機構法では、1) 文部科学大臣は、中期目標の期間及び中期目標を定め機構に示す、2) 機構は、中期目標に基づき、中期計画を作成し、文部科学大臣の認可をうけなければならない、と謳われています。新聞報道等でご承知のように、すでに文部科学大臣から機構の今期5年間の中期目標が提示され、これを受けて機構が中期計画を作成し、本年4月2日に認可をうけています。以下に中期計画の「基本方針」を原文のまま紹介します。

「国立高等専門学校は、中学校卒業後の早い段階から、実験・実習・実技等の体験的な学習を重視したきめ細やかな教育指導を行うことにより、産業界に実践的技術者を継続的に送りだしてきており、また、近年ではより高度な知識技術を修得するために卒業生の4割近くが進学している。

さらに、これまで蓄積してきた知的資産や技術的成果をもとに、生産現場における技術相談や共同研究など地域や産業界との連携への期待も高まっている。

このような国立高等専門学校にさまざまな役割が期待される中、高等学校や大学とは異なる高等専門学校の本来の魅力を一層高めていかねばならない。また、産業構造の変化等を踏まえ、創造力に富み、人間性豊かな技術者育成という視点に立って、国立高等専門学校における教育の内容も不断に見なおす必要がある。

こうした認識のもと、大学とは異なる高等教育機関として国立高等専門学校固有の機能を充実強化することを基本方針とし、中期目標を達成するための中期計画を以下のとおりとする」

この後に、計画を達成するためにとるべき業務運営の効率化や教育の質の向上等に係わるさまざまな具体的措置が列記されています。この計画達成に向け、機構は毎年、年度計画を立て、実行することになります。本校でもこの基本計画に添い、「個性化」、「活性化」、「教育研究の高度化」を目指して、さまざまな改革に取り組む予定ですので、教職員、学生諸君の協力をお願いします。

## 情報メディア教育の今後

情報メディア教育センター長 宮本 止戈雄

本年度から、図書館と総合情報センターは新しく発足した「情報メディア教育センター」のもとで運営されることになりました。このように二者の運営を一元化する目的は、合理的かつ円滑な情報提供サービスを実施できるところにあります。

図書館は、皆さんにとって重要であるさまざまな知的情報を系統的に収集して、閲覧に供しています。それに加えて、DVDソフトウェアや研究に必要な電子ジャーナルをはじめとする電子的メディアの受け入れ、および、必要な文献のコピーを取り寄せる文献複写サービスも行っています。

総合情報センターは、コンピュータを使用して一斉に演習ができる、3つの演習室を運用しています。これらの演習室では、電子メール、インターネットの閲覧、ワープロ、表計算、データベースなどのソフトウェアが使用できます。さらに、総合情報センターは、情報処理教育や語学教育などの授業でも利用されています。とくに、語学教育の分野での利用においては、コンピュータ支援による対話型の学習を、個々の学習者の学習レベルに対応して行うことが可能となりました。このような学習法は、CAL(Computer Assisted Learning)と呼ばれ、以前から注目されていました。その稼働が、本校の語学教育においてもようやく実現され、感慨深く思っています。

電子的メディアは、文字データは勿論のこと、音声や映像等の情報を複合的に扱うことができます。これはマルチメディアと称されて、実用化と普及が急速に進んでいます。このような技術革新にあわせて、本校の教育においてもマルチメディアを効果的に利用できる、よりよい教育システムを構築していかなければなりません。

それを実現する手段のひとつとしては、従来の図書館に「電子図書館」的機能をプラスすることを挙げることができます。これにより、時間的制約、空間的制約から解放され、いつでも、どこからでも利用できる「図書館」が存在することになります。そこに教育用や学習用の資料のデータを蓄積しておけば、コンピュータ端末からの閲覧が可能となります。したがって、教室にネットワークに接続されたコンピュータ端末とプロジェクターを設置しておけば、さまざまな授業において、必要となる多種多様な教材資料を、適時に、かつ効果的に提示することができるようになります。よって、今までよりもさらにわかりやすい授業が期待できます。

ここまでで述べてきたように、本校の教育、研究、および皆さんの学習に必要な知的情報資源を蓄え、それらを提供して教育活動を支援することこそが、情報メディア教育センターに課せられた使命です。皆さんにおおいに利用していただくべく、当センターの発展を願うものです。

### 福井謙一先生と大和郡山

一般教科 北村 誠

福井謙一先生をご存知の方はどれぐらいいるでしょうか。私は、普段あまり本を読まないのですが、先日ひさしぶりに、近鉄郡山駅のそばにある図書館に通ってみました。この図書館の一角には、大和郡山市出身でフロンティア軌道論の研究でノーベル化学賞を受賞された福井謙一先生を紹介するコーナーがあります。一種の記念館のようなものです。私は学生時代、福井先生の講演を聞く機会がありました。その時の話を思い出しながら、このコーナーにみとれておりました。

福井先生の講演の中では、よい研究者になるためには専門書以外の多くの本を読む事を勧められたように記憶しております。なかでも、いまだに私の記憶に残っている著書としましては、ポアンカレによって書かれた、科学の方法他3部作の著書をよく読み、自分自身の研究哲学の基礎を作ったと言うお言葉が、いまだに私の心から離れずに残っております。私自身も、この講演終了後、早速、この本を買い求め読み始めたのですが、字体が旧字でかなり読む事に苦勞し、まったく身につかなかったことを覚えております。その当時、さすがノーベル賞を取るような先生は違うと感心したものです。

奈良高専に赴任し、偶然にも駅前の図書館で福井先生を再発見いたしましたので、これも何かの縁だろう私も、現在この著書を読み直しております。

皆さんは、将来、世界の産業を支える科学技術者になられますので、狭い世界の学問のみにとらわれず、広い視野で多くの世界を観られることを期待します。そのためには、多くの専門外の著書を読まれることをお勧めいたします。

そして最後に、皆さんも大和郡山が誇る偉大な科学者のお話も知られてはいかがでしょうか。

### 思うこと

電気工学科 石飛 学

奈良に来て2ヶ月が経ちました。現在も着任時と同様、研究室の立ち上げ等であわただしい毎日を過ごしています。奈良高専に来るまでは本州の西の端、山口県の大学で学生として研究活動を行っていました。そのため、こちらに来て、気候、耳に入ってくる言葉、学校での生活など環境ががらりと変わり、毎日がとても新鮮です。初めてチャレンジすることが次々と目の前に現れ、ドタバタしてはいますが、学生達に助けられ、一緒になって充実した時間を楽しんで過ごしています。

私は、もう少し落ち着いてもいいですが、今のような充実した毎日をずっと楽しんでいきたいと考えています。そのために、ありきたりの言葉ですが、周囲のものへの関心や興味を大切に、何でも積極的に“楽しんで”取り組んでいきたいです。そして、どんなことでもやり遂げた時の達成感や、何かが解決し、分かった時の爽快感をいっぱい感じたいです。やらされている、仕方がない、今は我慢では楽しくありませんし、その時間を充実させることはできません。もったいないです。できることなら、今やっていること自体に目的をみつけ、楽しみ、充実させたい。充実した時間は得られるものも大きく、たくさんの方が身に付きます。「興味がある」や「好き」は「苦」を「楽しい」に変えてくれ、大きな壁も乗り越えさせてくれる魔法です。関心が湧けばやる気につながり、ポジティブになれる。それが私の原動力です。

では、関心や興味の対象を広げたり、その気持ちさをさらに高めるためにはどうしたらいいでしょうか。それは、様々な情報、いろんな人の考え方に触れ、そして物事を別の角度から見たり、深く掘り下げてみたりすることだと思います。情報源は身近にたくさんあります。テレビ、映画、インターネット。また、先生達の研究室

に遊びに行ってみても、おもしろい話が聞けるかもしれません。そして、本。手近にあり、誰でも自分のペースで、いろんな情報や考え方にじっくりと触れることができます。幸い、ここ奈良高専には立派な図書館があります。気軽に行ってみましょう。世界が広がるだけでなく、人生を大きく変える本に出会うかもしれません。

私が最近図書館で借りた本は、講談社の「なっとくする\*\*\*」というシリーズ。参考書なのですが、あまり堅くなく、授業で出てくる公式や演算の意味をイメージでつかむことができるようになる本です。電気の方、特におすすめです。

さあ、みなさん、眠っているパワーを好奇心で解き放ちましょう！！

## 本を読むということ

電気工学科 藤田 直幸

“本を読む”と一言と言っても、その目的は様々である。私の場合、授業の準備をしたり、研究に関する論文を読んだり“仕事上の必要のため”に本を開かない日は無い。また、ノウハウ本や旅行ガイドなど、“生活に必要な情報を得るため”に本を読むこともある。最近、奈良高専に赴任したのを機に、奈良を散策し始めた。先日は、『るるぶ奈良』を片手に明日香村を訪ね、大阪では、20年以上お目にかかれなかったカタツムリを見つけた。子供たちにとって、不思議な巨石巡りより収穫だったようだ。今は、『カタツムリの観察』を頼りに飼育している。

通勤で利用していた大阪モノレールには、通勤客が寄附した本を集めたモノレール文庫がある。“気分転換のため”に、目に付いた本を適当に選んで読んでいた。池波正太郎などの時代物や、吉本ばなな、江国香織など自分では絶対に買わないであろう本も読んでみた。こんな読書をしてみると、知らない世界との面白い出会いに恵まれることがある。1年で100冊以上読んだ年もあった。

読書の思い出をたどってみる。小学3年の時に、ポプラ社の伝記シリーズを、毎週学校から借り

て帰って読んだ。『エジソン』を読み、発明や研究に対する夢を抱き始めたのもこのころか。高学年で読んだ『次郎物語』には、魅力的な先生が登場する。巻末の解説に「この先生の影響で教師になった人が多い」と書かれていたことを覚えている。高専生の時には、武者小路実篤の本を片端から読んだ。自己を生かしきることで、他の人の幸せにもつながる生き方を目指す、そのまっすぐな考えに感動した。一方で、太宰治の自分の存在に苦悩する姿に共感したこともある。これらの本は、“生きるとは何かということを考えさせてくれた”本で、様々な人たちとの出会いと共に、私の人生に大きな影響を与えた本である。

皆さんは、どんな目的で本を読んでいるだろうか。最近、学生の読書量が減っているようだ。課題もインターネットで調べることが多くなっている。“専門の知識”や“生活に必要な情報”を得るためにネットを使うことは、本に比べ情報の深みに欠けるきらいがあるものの、利便さ、情報の新しさ、種類の豊富さなどから、非常に有効で、欠かせないものになってきている。しかし、“生きるとは何かということを考えさせてくれる”本に出会うことは、読書をした人だけの特権である。高専時代に皆さんがこのような本に出会えることを願っている。

## 読書のすすめ

情報工学科 並木 寿枝

皆さんはすでに多くの方々から読書の重要性について聞いてきたと思います。そこで私は、少し変わった読書のすすめをしようと思います。

一つ目は、よくいわれる事ですが、自分の専門分野と関係のないものでも何でも、まず本を読んでみて下さい。私事ですが、私は読書が好きなので学生時代多くの本を読んできました。その頃は、専門書から名著と呼ばれる文学作品、ベストセラー小説、エッセーなどいろいろなものを読んでいました。しかし、就職すると読書のための時間確保が難しく、仕事が終わって帰ってから本を読もうという気持ちがなかなかおき

なくなってきました。そして今では、専門書以外は本を読むことも少なくなってきました。

その経験から、学生時代ほど本をゆっくり読める時間はないと思います。また、高専に在籍している時期は、多感な時期でもあり、いろいろな事を考える上で基礎となる部分を作っている時期ではないかと思います。そんな時期の読書は、いろんな見方・考え方を身につける訓練にもなります。

二つ目に、時間が経ってからもう一度同じ本を読んでみて下さい。私にも高校生や大学生の時に読んで印象に残っている本が多くあります。しかし、その本を今読んでもその本を初めて読んだ時ほどの感動はありません。

なぜなのだろうかと考えてみました。そして、思い当たった事は、いろいろな経験を重ねていくうちに考え方も感じ方も変わっていくからだろうということです。あたりまえの事ですが、やはり、その時その時に読んで感じる事は年齢や経験によって違うのです。

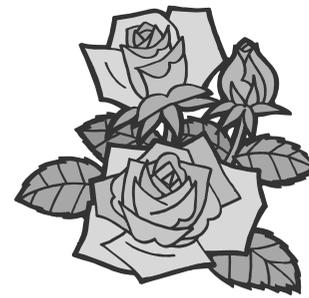
そこで、今何か本を読んでみて下さい。難しいものに挑戦しようとする必要はありません。いろんなものを読み、いろんな考え方を持つ人

がいるのだということを知ってください。

「この考え私の考えと一緒に」とか「ちょっと、この意見は賛成できないけど、こんな風に考える事もできるんだ」と新しい発見があると思います。そして、何年か経って同じ本を読んでみて下さい。

「あの時は、こう感じたけど、今はちょっと違う」ということも多くあります。また、「なぜあの時はこの本にこんなに感動したのだろう」とか「この本ってこんな事がかかっていたっけ」という事も感じると思います。そんな本との出会いをしてみてください。

きっと違った楽しさがあるのではないかと思います。



## 卒業生からのメッセージ

### 図書館と本との関わり

株式会社ヒラノテクシード  
乾 友亮（機械工学科卒業）

卒業するにあたって5年間の図書館の利用について振り返ってみると、図書館を有意義に利用できたかという少し疑念が湧きます。僕が図書館を利用する目的といえば、レポート課題の作成のための参考文献を借りたり、テスト前に友達どうして少しだけ勉強に利用したりするぐらいでした。奈良高専の図書館は一般の図書館と比べて専門書の数が多いため、レポートの作成にはたいへん役に立ちます。しかしレポート

作成時には、みんなが一斉に同じ分野の本を借りるため、残っているのは古い蔵書ばかりでした。そのような本の中から、目当ての文献を探し求めるのは一苦労だったのを覚えています。また雑誌や小説もたくさんあり、図書館に来た目的を忘れ、そちらのほうに熱中してしまったこともありました。

僕は本が好きでよく文庫や雑誌、漫画など読みますが、意外と図書館で本を借りるという習慣はありません。なぜなら図書館には貸出し期間というものがあるからです。たぶん本を借りても最後まで読めずに返してしまい、活字を読

むのがおっくうになった人はたくさんいると思います。だから僕の場合、自分のペースで思い立った時に少しずつ本を読むようにしています。そのため本屋に行って、じっくりと自分の読みたい本を探します。この課程だけでも楽しむことができます。そして本をゆっくり読んだり、読み返したりしたりできるのも1つのメリットだと思います。また自分で探してきた本は、不思議とページが進み、必ず最後まで読み終えてしまいます。反対に他人に薦められる本は、不思議なもので読む意欲があまり湧いてこなく、記憶に残りにくいように感じます。これは教科書なんかにもいえることだと思います。つまり本を好きになるきっかけとして、自分で本を探すということが重要です。自分の好きなものや興味を惹くものから、本を見つけるといのもひとつの手段です。幸い今はインターネットで本のレビューがたくさんあり、本を選ぶ際の参考になります。そうして探した本を図書館で借りてみるというのも意外といいかもしれません。こうして自分のペースで少しずつ本を見つけて読むようにしていけば、本を読むのが楽しくなるのではないのでしょうか。

## 図書館のすすめ

奈良工業高等専門学校専攻科（進学）  
梅田 昌紀（機械工学科卒業）

今回、図書館だよりに載せる「卒業生からのメッセージ」を書いてくださいと依頼されました。恥ずかしながら私は在校生にメッセージを残せるような読書好きではないし、文章を書くのも苦手です。普段、自分から読むものといえは漫画ぐらいです。そんな私が「本を読みましよう」というのも全く以って説得力の無い話です。しかし、高専生活の5年間では、結構、図書館に足を運びました。そのほとんどが、主に専門教科の課題であるレポート作成のためです。

機械工学科では1年から様々な授業でレポート提出が課されます。1年生の専門教科のレポート作成は購入した教科書を開いてみれば、案外載

っているものでした。それが2年、3年と学年が上がるにつれて教科書では対応できないようになってきます。1年の頃には図書館に行っても「ブラックジャック」等の漫画を読むことしかしていない私も、レポート作成のために様々な本を借りるようになりました。5年生になると卒業研究が始まり、自分の研究する分野の専門書が必要になります。こういった本はさすがに図書館にあることが少なくなり、指導教官からお借りしたりします。

専門教科のために読む本は専門書です。専門書で得ることのできる知識は、やはり狭い分野のことだけです。高専だけで生活をするのであればそれでもいいと思うのですが、今後、私たちは社会にでて、いろいろな分野で物作りに関わります。そんなときに、一方向だけではなく、いろいろな角度からものごとを見て、考えることができなければならないと思います。そのために必要なことは、柔軟な考えといろいろな知識です。

図書館には、多くの本があります。是非、足を運んで、少しでも興味のある本を手にとって読んでみてください。そうすることで知識を得ることができ、また、一つのことをいろいろな角度から見ることができるようになるかもしれません。

## 上手に使いこなそう

神戸大学（進学）  
工藤 卓也（電気工学科卒業）

私が高専に入ってから卒業するまでの5年間、図書館の利用について振り返ってみると、入学当初から私は読書が苦手だったはずなのに意外に多くの場面で活用していたと思う。

例えば低学年のときは、試験前になると同じクラスの数人を集めて互いに勉強や情報を教えあったりしていた。また図書館のパソコンや地図図を利用して先輩たちと部活の合宿計画を静かに（笑）話し合ってた楽しかった思い出がある。3、4年では専らレポートの資料集めのために図書館

に足を運ぶことが多くなり、たまに「また行かなあかんのか」と思うことがあった。でもそのおかげで専門書が読めるようになっていったし、調べたい内容が書いてある専門書を探し当てるのが得意になっていた。編入のための受験勉強をしていたときは、数学の勉強会の後やなんとなく家で勉強する気が起きないときに勉強の場所として利用していた。

そして受験が終わって現在（これを書いているのは3月）まではどうかというと、専門書とは離れて今まで縁がなかった文庫本や雑学本に走りだした。なぜかというと、受験シーズン中は毎日電車通学中に英単語帳をひたすら読んでいたけど、受験が終わると車中暇になってしまったからだ。これが読み始めると非常に面白くて、電車に乗っている時間が短くなったような気になるぐらいだ。それに文庫本だと、読む楽しみが1週間は続く。マンガよりお得感があると思う。

とまあ色々書いたけど、私は気付かないうちに結構図書館を使いこなしていきなり元はとれたんじゃないかと思う（笑）。自分のためになることがいっぱいあるんだから、使わないなんてもったいない。それと、読書嫌いの人へ、手を出すのが面倒くさいだけで嫌いと言っている人が多いと思うので、暇ができたなら本に詳しい人にお薦めを聞いて、図書館で借りるなり、書店で買うなりしてみてもいいかな？

## 図書館のススメ

大阪大学（進学）  
森田 真之（電気工学科卒業）

図書館を利用していますか？ クラスを見渡してみると、図書館をよく利用している人と全く利用していない人の二つに分かれている気がします。しかしよく利用している側の私から言わせれば、利用していない人はけっこう損をしています。理由は多々ありますが、まず専門書がいっぱいあります。コンピュータ関連の書籍が古いのが残念ですが、レポートなどの調べもの答えは大抵あります。しかも毎年先生が同じ

課題を出していることも多く、図書館の本にはご丁寧に印が付いていたりすることもよくあります（借り物の本に線を引いたりするのはどうかとも思いますが）。図書館を勧めるもう一つの理由は、当たり前ですがタダで本が読めることです。自分がいいと思った本はお金を払ってでも買いますが、わざわざ買ってまで読もうとおもわない本も多々あります。タイトルを見てなんだかおもしろそうというレベルの本などがその類です。そういう本を見かけたらとりあえず借りときましょう。おもしろくなかったらすぐに返せばいいだけなので。あとブックハンティングでマイナーな本を入手することも可能です。しかし、残念なことにブックハンティングは図書館を利用していない人にほとんど知られていませんし、知っていてもわざわざそこまでして読みたい本なら自分で買ってしまうので、結局、図書委員を中心に限定されたメンバーの趣味で本が購入されている現状のような気がします。このへんは改善の余地がありそうです。あと、図書館の本は2週間しか借りられませんが、もっと長く借りたいということがあります。受験のときや卒業研究のときがそうでした。そんなとき私は、2週間ごとに返却して借り直しをするという方法で何ヶ月も借りていた本もあります。めんどくさいからといって借りっぱなしはダメです。新しい本が借りられなくなるからです。最後に、本を借りなくても図書館という空間は集中できるので、それだけのために足を運んでみるのもいいかと思います。

## 卒業にあたって

大阪大学（進学）  
上谷 巧（電子制御工学科卒業）

高専に入学してから卒業まで5年という歳月をこの学校で過ごしてきたわけですが本当にあっという間の出来事だったように感じます。僕の中でこの5年間はすごく短く感じたのですがその内容はとても密度の濃く充実したものでした。

何よりも一番僕の中でウエイトの大きかった

ものはやはり部活動でしょう。在学時代は吹奏楽部に所属していました。音楽を通じて人と合わす事の大切さや難しさ、何よりもその楽しさを知ることができました。それは曲中だけでなく人間関係にもおいても同じ事で、この部活を通して多くのことを学んだ気がします。同時に「楽器を吹く」という自分にとってかけがえのない宝物ができました。僕はこれからも楽器を吹きつづけていくつもりです。この学校はクラス替えがないのでぜひみんなも部活等で交友関係を広めていって欲しいと思います。

高専はどちらかというとクセのある人が集まるところだと思います。だから他の人と話したりするのがとても楽しかったです。常に新しいことの発見で様々な人から刺激をもらい僕自身大きく成長することができたと思います。親友と呼べるような友達も沢山できたし、本当にこの5年間色々な経験をさせてもらいました。

ふと「あのときあの高校に行っていれば…」と思うこともあります。しかし、実際にもう一度その岐路に立つことが出来たとしても僕は高専を選ぶと思います。やはりこの学校で得たものはそれほど自分の中で大きいものでした。本当にこの学校に感謝しています。在校生の皆さんも積極的に高専と付き合って高専ライフをエンジョイして下さい。

## 図書館利用のススメ

名古屋大学（進学）  
澁久 奈保（情報工学科卒業）

図書館利用のススメをお話したいと思います。高専には、読書嫌いの人が多いと言われます。読書嫌いの方、通学途中やふとしたあいまにポケットや鞆から漫画ではなく、文庫本を取り出し、読み始めた人を見たら、賢そうに見えますか？ 少なくとも私はそう見えます。読書が嫌いだ、という人（がこの文を読んでいるかどうかわかりませんが）は、他人に自分を格好良く見せたいとか、そんな理由でも良いので、まずは本を手にとってみてはどうでしょうか。当

たり前ですが、図書館は無料なので気軽に試すことができます。適当に手に取った一冊が、あなたの考え方を換え、運命を変えてしまうかもしれません。そのくらい、本には力があります。

本の力が強いせいで、本の読み過ぎは体の毒となります。そこで、何かのあいまに本を読むという方法をお勧めします。私は図書館を、1年生から3年生まで、授業が終わってから部活が始まるまで空いた時間に、小説を読んで利用しました。幸か不幸か奈良高専の図書館は、話題作や新刊を予約なしで借りられる場合があります。私にとっては幸なので、好きな作家の新刊を図書館で見つけては大喜びで読んでいました。4、5年生は、小説を読む時間が大学編入学試験のための勉強や卒業研究で大幅に削られたので、ほとんど小説は読んでいません。その代わりに、勉強するための参考書、あるいは卒業研究に必要な専門書を借りて、図書館を利用しました。今振り返ると、図書館を有効に利用していたと思います。皆さんも、時間を見つけて、図書館へ行ってみてはどうですか。

最後に、この場をお借りしまして勉強面以外で、私の高専生活を支えて下さった、剣道部顧問の福田先生と中村先生にお礼申し上げます。また、元剣道部顧問である番原先生にお礼申し上げます。そして、全員の名前を挙げることはできませんが、剣道部の皆さん、ありがとうございました。特に、南垣さんと山本さん、女の子の力で剣道部を引っ張って行って下さいね。これからの活躍を期待しています！



## 演習室がリニューアルされました！

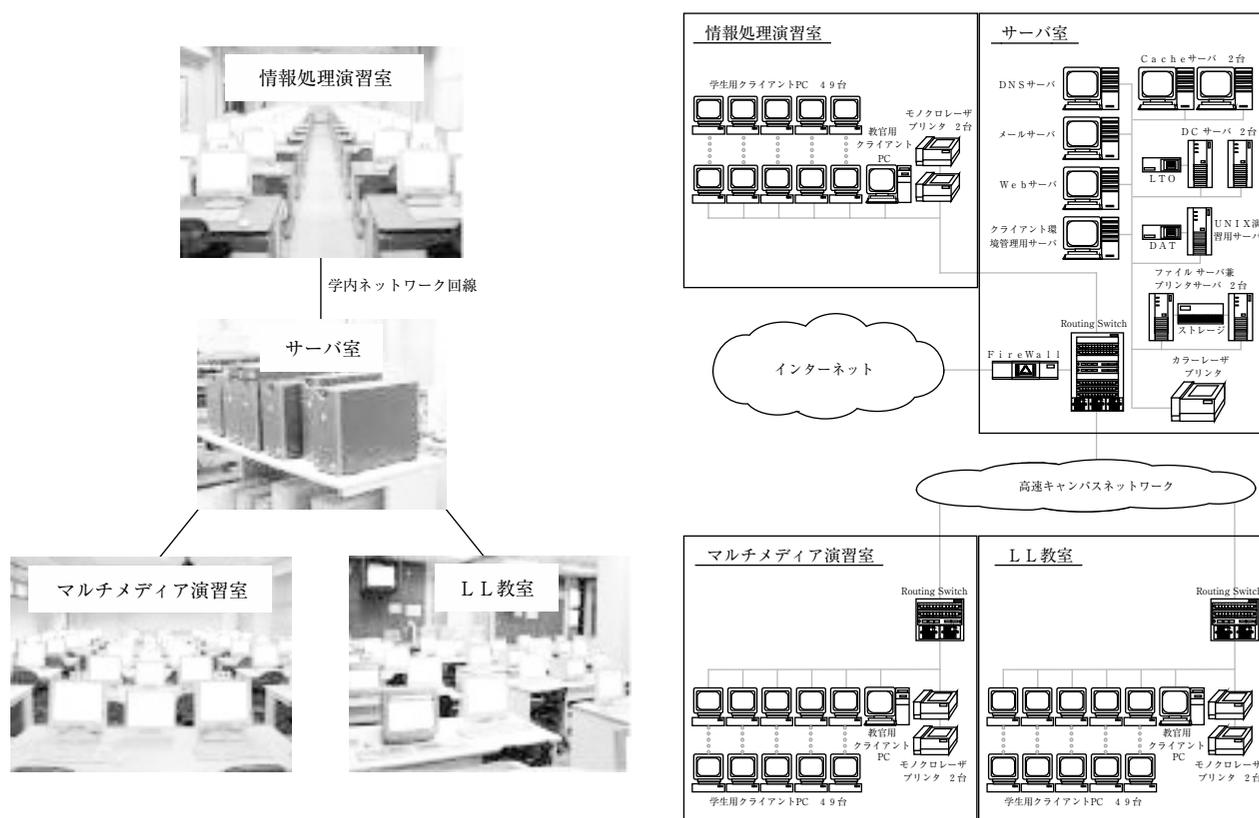
総合情報センター員 川辺 涼子

総合情報センターよりご報告させていただきます。これまで「総合情報センターより」という記事は『CAMPUS』で掲載していましたが、今年度よりこちらに移行することとなりました。今後とも宜しくお願いします。

さて、既にご存知の方が多いかと思いますが、総合情報センターの演習室が新しくなりました。ここではそのシステムを簡単にご説明させていただきます。

下左図のとおり、総合情報センター情報処理演習室、マルチメディア演習室、及びLL教室（以下「センター3演習室」）は、サーバ室設置の各種サーバへ学内ネットワーク回線を介し接続されています。旧システムでもこのような構成でしたが、ソフトウェアのバージョンが統一しておらず不具合が多発していました。それを踏まえ新システムではバージョンの統一を重点にシステムを構成したことで不具合を大幅に減少させることができましたし、新しいバージョンとなったことで快適な環境が整いました。また、新システムで導入されたハードウェア構成は下右図のとおりです。なお、詳しくは総合情報センターWebページ（<http://www.center.nara-k.ac.jp/>）掲載の「システム説明書」をご覧ください。その他、わからないことがありましたらお気軽にセンター員へお尋ねください。

最後に、皆さんには図書館同様センター3演習室もどんどん利用していただき、より一層知識の幅を広げていってほしいと思っています。



## 2004年度（平成16年度） 学生会図書委員会

	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	物質化学工学科
第1学年	中井 光	中出 宗久	田中 省吾	仁池 卓史	水谷 祐介
第2学年	小倉 三郎	鎌田 啓吾	池田 亮介 谷 宗一郎 吉川 尚男	戎 昌也 林 重樹	吉田 直
第3学年	八木 賢大	藤井 智史	藤本 準	辻 駿介	道下 友美 ○
第4学年	田中 幸雄	田中 大貴	古田 耕平	安達 健一 ◎	上辻 広 ○
第5学年	浅野 真幸	小猿 潤一	齋木 惇高	熊谷 篤志	スダルト

◎：委員長    ○：副委員長

## 2004年度（平成16年度） 情報メディア教育センター運営委員会

情報メディアセンター長	宮本止戈雄
図書館担当副センター長	武田充啓
マルチメディア担当副センター長	松尾賢一
センター員	長瀬 潤    酒井史敏    宮田正幸    山本和男    井口高行
幹事	俣野 正（庶務課長）    吉田泰彦（学生課長）
図書係	係長：杉本龍信    司書：清水美代    係員：清水貴生 事務補佐員：松田愛子    奥島美恵子    辻 寛子
総合情報センター	班長：中裏良一    技術職員：川辺涼子    二宮由成

### おしらせ

夏期休業中〔7月21日(水)～8月31日(火)〕の開館時間等はつぎのとおりです。

**開館・休館・閉館**  
 開館 平日 8:30～17:00  
 休館 土・日曜日 祝祭日  
 閉館 8月5日(木)～8月13日(金) 蔵書点検のため

**長期貸出** 7月5日(月)から 9月2日(木)までに返却のこと

**貸出冊数増冊** 8冊に増冊 7月12日(月)より実施

### ■ 一般利用のご案内 ■

本校図書館は、一般開放しています。学生諸君のご家族の方々もご利用くださるよう、ご案内いたします。理工系図書とともに、教養を深める一般図書も取り揃えています。

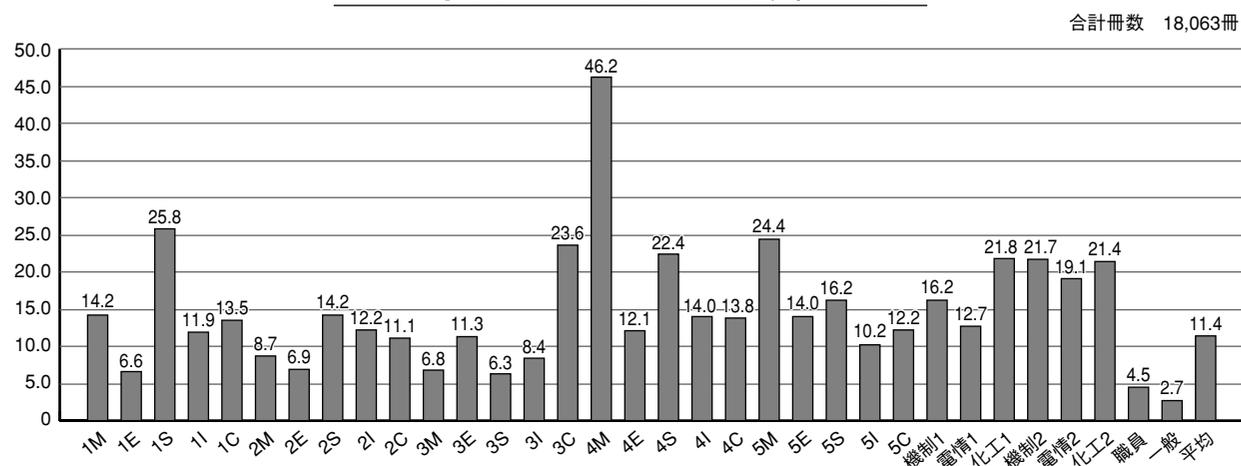
## 図書館利用状況

	2001年度	2002年度	2003年度
開館日数	265日	265日	270日
平日	230	231	233
土曜日	35	34	37
図書館入館者数	82,666人	90,773人	90,080人
平日	78,016	85,563	85,619
土曜日	4,650	5,210	4,461
一日平均入館者数			
平日	339人	370人	367人
土曜日	133	153	121
文献複写依頼件数	633件	410件	425件
受付件数	0	0	4
図書借受冊数	2冊	0冊	0冊
図書貸出冊数	15,288冊	16,008冊	18,063冊
1学年	2,494	2,978	3,044
2学年	1,742	2,114	2,272
3学年	1,745	1,995	2,307
4学年	3,854	2,992	4,553
5学年	2,756	3,263	2,984
専攻科	978	1,109	1,354
職員	913	933	644
一般	806	624	905

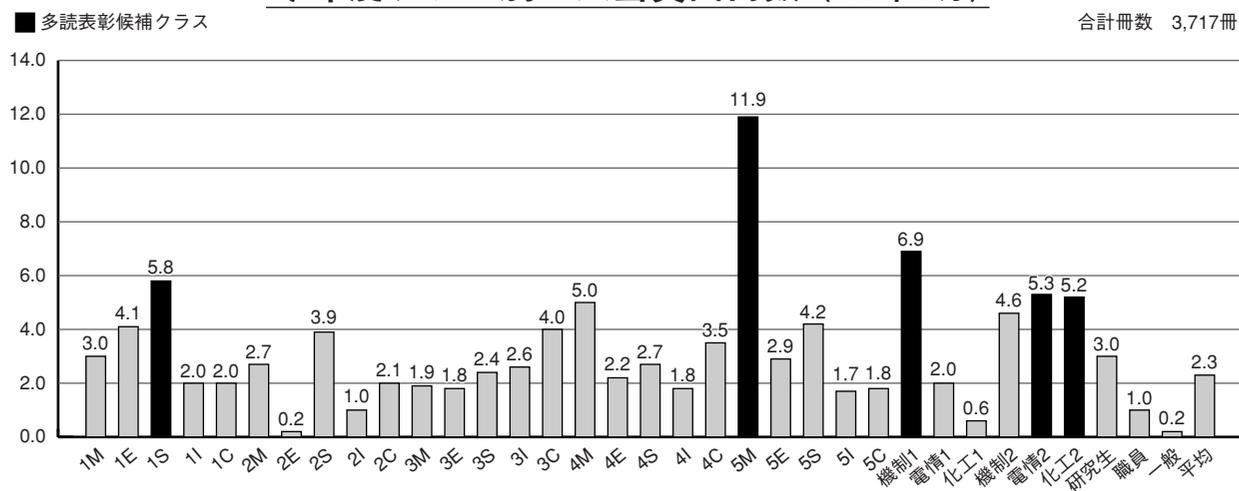
	2001年度	2002年度	2003年度
分類別貸出数	15,288冊	16,008冊	18,063冊
総記	1,249	1,312	1,435
哲学	137	233	261
歴史	420	398	392
社会科学	249	254	328
自然科学	3,060	3,402	3,770
技術	4,471	4,548	4,929
産業	67	53	63
芸術	975	1,194	1,194
言語	601	619	868
文学	3,715	3,944	4,572
未分類	344	51	251

CD-ROM等の視聴覚資料も含む。ノート記入による貸出分は含んでいない。

## 2003年度クラス別一人当貸出冊数



## 今年度クラス別一人当貸出冊数（04年5月）



## 最近の書棚から

### 世界の中心で、愛をさけぶ

片山 恭一（著） 小学館

10数年前の過去を回想するかたちで物語は進む。高校時代、恋人を、愛する人を、かけがえない人を亡くす。辛い。それは、辛すぎる。私（今この文を書いている者）は男である。小説、テレビ番組、漫画などいずれにしても、男が愛する者に対してどうすることもできず、男に重苦しい「無力感」や「喪失感」をつきつけるストーリーは、多いように思う。このような感想をもった時点で、この本にシンパシーを感じているということなのかもしれない。きっと、そうだろう。

### 冬のソナタ（上・下）

キム・ウニ（著） ユン・ウンギョン（著） 宮本 尚寛（訳） 日本放送出版協会

切ない初恋の記憶、胸に刻まれた消えない思い出。でも、もうこの世にいないはずの初恋の人に、突然出会ってしまったら…。ロケ場所が人気のデートスポットになったり、風になびくヘアスタイルや捻って結ぶマフラーの巻き方などの主人公のファッションが若者の間で大流行したり、韓国で大ブレイクして社会現象とまでなった韓国KBSの純愛TVドラマ。その人気は、他のアジア地域までひろがっています。そして、その小説・日本語翻訳版がついに登場。

### これだけは読んでおきたい科学の10冊

池内 了（編著） 岩波書店

書名のとおり「本の本」です。10人の筆者が、若い人たちに読んで欲しいと願う自然科学の本について、その内容や魅力をそれぞれの思い入れをこめて紹介しています。本にまつわる思い出やエピソード、読むポイントや裏話などをコンパクトにまとめたものです。各章の最後には、さらに関心のある人のために関連書も掲載されていますから、より詳しい内容へ、あるいはその周辺分野へと、踏み込んでいけることでしょう。紹介されている本のほとんどが本校図書館に所蔵中です。未所蔵のものについても順次購入していきますので、皆さんもまずこの10冊に挑戦してみてください。「科学ってこんなに面白かったのか!」ときっと思われることでしょう。

### 鉄道ひとつばなし

原 武史（著） 講談社

鉄道をテーマに、さまざまな視点から語られる76のはなし。しかし、ジェンダー、永井荷風、ヒトラー、天皇…からは、およそ鉄道を連想することはできないだろう。「浦和の謎」や「第1象限とバス文化」は鉄道とどのように関連するのか。鉄道を地域的にみた場合、極めて不平等であることを「東京に出づらい都道府県ランキング」は教えてくれる。身近で利用できる鉄道を舞台に、鉄道でなければ、例えば自動車や航空機では、この76のはなしは成立しない。そんな世界へ誘う1冊の本。いまの2年生は地理の実習で「大阪駅に出づらい場所」の探索に挑戦し

た。机上でも鉄道はわれわれを知らない町へ誘ってくれた。読んでみたいという気になってきませんか。

### 南極からのメッセージ 地球環境探索の最前線

NHK出版（編） 日本放送出版協会

昨年2月、テレビ放送は開始50年を迎えました。その記念事業のひとつとして南極・昭和基地にNHKハイビジョン放送センターが開局されました。世界初の南極生中継として素顔の南極大陸がここから発信されました。本書は、南極地域観測隊に同行したNHKスタッフのレポートや両極単独横断を達成した冒険家の大場氏、観測隊長の鮎川氏などの話で構成されています。沈まぬ太陽、ブリザード、オーロラ…。人類最後の秘境・南極では、地球環境に起こるかすかな変化が最も敏感に現れます。その大自然を見つめながら、南極大陸が握っている地球システムの鍵を明らかにし、今、人類が直面している最大の課題である地球環境問題解決の手がかりを探りましょう。かけがえのない地球を次世代に引き継いでいくためにも…。本校職員も1名、現在、越冬隊員として南極で活躍中です。

### 軽症うつ なんとなく心が晴れない

坪井 康次（著） 岩波書店

「疲れているのに、なかなか眠れない」「早朝に目が覚めて、再び眠れないまま起床時間をむかえる」「いつも頭痛がする」「いつも胃が痛い」「動悸がする」「いくら休んでもどんどん疲れがたまってくる」「何事に対してもやる気が出ない」「楽しみだった趣味に関心がなくなった」「新聞を読むのが面倒だ」「テレビドラマのスジがつかめない」「本を読んでも、内容が頭に入らず、混乱する」「仕事が気になって仕方がなく、疲れているのに休日も出勤せずにはられない」「常に何かの出来事に追われているようだ」「焦燥感が高まってくる」「とにかく、はやく休みたい、が、それができない」「自分の体なのに、コントロールされていないようだ」。さらには、「内科を受診していろいろな検査を受けたのに、まったく異常が見つからない」。

異常がないなんて、そんなはずないだろう。おかしいじゃないか。こんなにしんどくて、たまらないのに。このままじゃ、どうなるんだ。誰かなんとかしてくれ。

もし、このようなコンディションに思いあたりがあるのなら、あなたは、うつ病かもしれません。うつ病なんて縁のない病気だと思っていたあなた。それは間違いです。諸説ありますが、10人に1人の人が、一生のうちに一度はうつ病になるといわれています。日本では、毎年3万人以上の自殺者がいますが、その半数以上がうつ病に起因する自殺であると推定されています。ちなみに、平成14年の年間の交通事故による死者数は8326人（※1）でした。うつ病の犠牲者が、いかに多いかがわかります。ほら、気になってきたでしょう。では、この本を読んでください。

（※1）平成15年1月2日 中央交通安全対策議会議長 内閣総理大臣 発表

### トップ・スパイ 冷戦時代の裏切者たち

グイド・クノップ（著） 永野 秀和（訳） 赤根 洋子（訳） 文藝春秋

今、本校の学生である皆さんは、東西の、別の言葉で言えば、米ソの冷戦時代をリアルタイムで体験したのでしょうか。ベルリンの壁が、ハンマーで叩き割られる光景のテレビ映像をリアルタイムで目にしたのでしょうか。「ソビエト社会主義共和国連邦」が崩壊するプロセスを、リアルタイムに記憶したのでしょうか。

上級生から下級生までの皆さんについて推測すると、おそらくこれらは、とくに下級生にとっては、物心がつくつかないかの微妙な時代におこった出来事だと思います。

いわゆる「冷戦の時代」には、東西どちらの陣営にとっても、諜報活動と防諜活動が非常に重要な役割を果たしており、「冷たい」戦争の裏側では、「熱い」スパイ戦争が繰り広げられていました。ある意味、この「ホット」な戦争のおかげで、東西間に実際の戦闘行為はおこらず、「冷たい」すなわち「コールド」な、極めて微妙な均衡が保たれていたとも言えます。

その「ホット」な戦争の当事者、そのなかでもとりわけ重要な役割を演じたトップ・スパイたち。彼らをスパイ活動に駆り立てた共通項とは、「祖国を裏切る勇気」であると本書は述べています。その「勇気」とは何か。戦後史に名を残す大物スパイ6人への直接インタビューにより、スパイたちが自ら語った、小説よりも面白いスパイ活動の真実。本書により、戦後スパイ史の全貌が暴かれます。

冷戦終結後の現在においても、スパイは活動を続けています。EUに、かつて敵対していた東側の国が加盟するような、冷戦当時だれも予測しなかった今日の状況では、スパイ活動も当時とは明らかに変化しています。しかしながら、現在、中東その他で重要視されている対テロ活動においても、敵対組織に浸透し、あるいは敵対組織の人間を自国の情報源としてとりこみ、網を張り、情報を手に入れ、スパイ同士をつなぐ連鎖を使って、情報を秘密裡に流しているスパイが必ずいるはずです。

皆さんも、かつてのスパイ活動を記録した本書を通じて、冷戦の時代を振り返ってみては、いかがでしょうか。おりしも、アメリカ合衆国第40代大統領、ロナルド・ウィルソン・レーガン氏が、亡くなりました。彼は、その冷戦に勝ち、終結させた人物です。

### 恐怖の都・ロンドン

スティーブ・ジョーンズ（著） 友成 純一（訳） 筑摩書房

人肉パイの仕出し屋。カニバリズム。ジャック・ザ・リッパー。灰色の男。疫病。ペスト。死の捜査人。死姦。瀉血療法。「ロンドン・ブリッジ、落ちた」。串刺しの首。晒し首。ファシスト。牢獄生活。醜い奴。あくどい奴。呪われた船。テムズの悲劇。「ジャック・ザ・ストリッパー」。殺人鬼。ポルターガイスト。隠し階段。覗き穴。冷血。虐殺。狂気。死体盗掘人。地下倉庫。腐敗。亡骸。乞食。売春。阿片吸飲。ポロ布。生体解剖。女墮胎医。追い剥ぎ。幽霊。詐欺師。姦通。囚人船。鉄の枷。性病。疥癬。壊血病。チフス。赤痢。コレラ。絞首台。公開処刑。死刑執行人。スパイ。裏切り者。銃殺刑。ロンドン塔。麻酔薬。首吊り縄。バラバラ殺人。共同墓地。ヒ素。浴槽の花嫁。偽装結婚。不倫。硫酸風呂殺人鬼。サディスト。マゾヒスト。性的殺人鬼。中絶。10代の殺人者。動機なき殺人。窃盗。嫉妬。憎悪。復讐。欲望。エイズ。拷問部屋。絞殺魔。魔女裁判。

…ロンドンのダークサイド。あなたは、それを知る準備ができていますか。

### 平安京のゴーストバスター 陰陽師 安倍晴明

志村 有弘（著） 角川書店

「陰陽師」。「安倍晴明」。話題ですね。京都の「晴明神社」も大人気です。商売上手です。

まあ、それはそれとして。

どのような時代にも、その時代の軸となり、脚光を浴び、歴史の中に大きく名を残す人物がいます。その一方で、歴史の陰に隠された、あるいは自ら隠れていた人物もいます。

